

Title	青柳文雄先生略歴；主要著作目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1988
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.61, No.2 (1988. 2) ,p.275- 288
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	青柳文雄先生追悼号
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19880228-0275">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19880228-0275</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

青柳 文雄 先生 略歴

明治四四年 二月七日 東京都港区飯倉に生まれる

昭和四年 三月

暁星中学卒業

昭和一〇年 三月

慶應義塾大学法学部法律学科卒業

一〇月

高等文官試験司法科合格

昭和二年 五月

司法官試験に任命さる

昭和二年 二月

検事に任命さる（東京、山形、千葉各地方、区裁判所等各検事局に在勤）

昭和八年 二月

領事に任命さる（漢口、天津、北京、山海関等各領事館に在勤）

昭和二年 七月

検事に復職（東京地方、区裁判所検事局に在勤）

昭和二年 一〇月

慶應義塾大学法学部講師（昭和四七年三月まで）

昭和三年 一月

最高裁判所事務官に任命さる

昭和二年 六月

最高裁判所刑事規則諮問委員会幹事

昭和三年 四月

最高裁判所調査官、東京地方裁判所判事に任命さる

昭和三年 六月

学習院大学法学部講師（昭和三八年三月まで）

昭和四年 六月

判事任期終了

一二月

上智大学教授（昭和四四年三月まで）

一二月

慶應義塾大学より法学博士の学位を受ける

昭和五年 一月

司法試験（第二次試験） 考査委員（昭和四三年度まで）

- 昭和三八年 四月  
慶應義塾大学大学院法学研究科講師（昭和四三年三月まで）
- 昭和三九年 八月  
法制審議会刑事法特別部会委員
- 昭和四〇年 四月  
検察官特別考試審査会臨時委員
- 昭和四一年 七月  
上智大学法学部長
- 昭和四三年 四月  
最高裁判所一般規則制定諮問委員会臨時委員
- 昭和四四年 四月  
警察大学校特別捜査幹部研修所講師
- 七月  
東京高等裁判所判事に任命さる
- 昭和四七年 四月  
法制審議会刑事法特別部会委員
- 昭和四八年 四月  
慶應義塾大学教授（法学部）兼大学院法学研究科委員（昭和五一年三月まで）
- 昭和四八年 一月  
駒沢大学大学院講師（昭和四九年三月まで）
- 昭和五一年 四月  
司法試験（第二次試験）考查委員（昭和五五年度まで）
- 四月  
上智大学教授（法学部）（昭和五六年三月まで）・筑波大学大学院講師（昭和五六年三月まで）
- 昭和五六年 四月  
弁護士登録（東京第二弁護士会）
- 昭和五七年 四月  
立正大学客員教授（法学部）
- 八月  
日本医師会医師賠償責任保険調査委員（昭和六一年三月まで）
- 一〇月  
同医事法関係検討委員会委員（昭和五九年三月まで）
- 昭和五九年 四月  
警察大学校講師
- 昭和六一年 二月二八日  
日本医師会参与（昭和六一年三月まで）  
逝去







証拠法の理論と現実

新しい予審制度の検討

供述の任意性—小島事件—

公判中心主義の課題

事実の錯誤について

陪審制、参審制についての一考察

準備草案第一一条から第一六条について

捜索令状を発する司法官憲の法令審査権の有無—昭和三五年五月二日東京地裁判事—三部の決定について—

警察学論集一二卷一二号 昭和三四年

ジュリスト一九九号 昭和三五年

ジュリスト二〇〇号 昭和三五年

法曹時報一二卷四号 昭和三五年

法学研究三三卷五号 昭和三五年

上智法学論集四卷一号 昭和三五年

綜合法学二四号 昭和三五年

法律のひろば一三卷七号 昭和三五年

ジュリスト二一一号の二 昭和三五年

警察学論集一四卷二号 昭和三六年

綜合法学三四号 昭和三六年

法学セミナー六三三号 昭和三六年

ジュリスト二二八号 昭和三六年

法学教室一号 昭和三六年

法学研究三四卷八号 昭和三六年

法律のひろば一四卷九号 昭和三六年

自由と正義一二卷一〇号 昭和三六年

上智法学論集五卷二号 昭和三六年

松川事件の問題点—仙台高裁判決を中心として—

偽証罪の一考察

松川事件の捜査

松川事件

門田判決の検討—

門田判決の検討—門田判決—は真実を衝いているか—

捜査段階の拘束	法律のひろば一五卷一号	昭和三十七年
現行犯概念の検討	警察学論集一五卷四号	昭和三十七年
自手犯についての若干の考察	上智法学論集六卷一七号	昭和三十七年
財産犯についての二、三の問題	綜合法学五卷一二号	昭和三十七年
社会相当性についての実務的考察	法学研究三五卷一二号	昭和三十七年
昭和巖窟王再審事件の論争	法律のひろば一五卷一二号	昭和三十七年
控訴	日本刑法学会編「刑事訴訟法演習」所収 有斐閣 判例評論五四号	昭和三十七年
旧刑訴事件の再審の準拠法―日本巖窟王事件―	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
刑事法における時効制度	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
期待可能性についての若干の考察	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
弁護人の権限	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
未必の故意の再検討	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
税法上の質問検査権と犯則調査	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
再審制度について	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
訴訟の理想と現実(上)(下)	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
麻薬犯罪と囑捜査	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
司法権と警察権の問題点	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
松川事件最終判決	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
傾向犯について	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
松川事件雑感	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
司法権の予防作用	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年
松川事件と弁護活動	上智大学編「伝統と創造」所収 上智大学出版部 綜合法学六卷二七号	昭和三十八年



刑事警察の在り方 疑わしきは罰せず	綜合法学六卷七号	昭和三八年
裁判批判の限界(松川事件)	自由五卷一一号	昭和三八年
証拠の集取と評価—松川事件を顧みて—	法曹時報三五卷一一号	昭和三八年
訴訟の促進と捜査	法律のひろば一六卷一一号	昭和三八年
死刑存置論	警察学論集一六卷一二号	昭和三八年
控訴審の構造	法学研究三七卷一號	昭和三九年
自白の証拠能力	綜合法学七卷六号	昭和三九年
上告審における自由心証の控制	ジュリスト三〇〇号	昭和三九年
責任無能力を理由とする無罪判決と刑事補償	刑法雑誌二・三・四号	昭和三九年
共犯理論と証拠法	判例時報三七八号	昭和三九年
量刑の手續と判決前調査	植松正等編「現代の共犯理論 斎藤金作博士還暦祝賀」所収	有斐閣 昭和三九年
上訴審の構造	日本刑法学会編「刑事訴訟法講座」二卷所収	有斐閣 昭和三九年
刑事裁判における自由心証	日本刑法学会編「刑事訴訟法講座」三卷所収	有斐閣 昭和三九年
法廷秩序維持法の合憲性	佐伯千仞、田藤重光編「綜合判例研究叢書(刑事訴訟法)」五卷所収	有斐閣 昭和三九年
択一的認定	別冊ジュリスト一號	昭和四〇年
実務刑法の見地から見た共犯—理論と立法—	別冊ジュリスト一號	昭和四〇年
現代の犯罪と人間像	ジュリスト三一三三號	昭和四〇年
捜査構造論とその批判	世紀一七七号	昭和四〇年
供述の任意性(小島事件)	研修二〇〇号	昭和四〇年
司法試験法の改正について	別冊ジュリスト二號	昭和四〇年
自由刑とわが国民性	法律のひろば一八卷四号	昭和四〇年
	法学研究三八卷四号	昭和四〇年







違法に集取した物の証拠能力

糺問的捜査観と弾劾的捜査観

被疑事実の告知と黙秘権の告知

わが刑事訴訟法における生理と病理(上)(下)

現行刑事訴訟法と再審制度

刑法の基本原理―罪刑法定主義・責任主義―

刑事訴訟における当事者主義極端化への疑問―最高裁判例を中心として―(上)(下)

刑事手続特に上訴制度と刑罰観

交通事故と犯罪の個数

鑑定と検証―英米法と大陸法の差異―

刑事裁判の確定力

故意犯受刑者の訴訟手続の意識調査

刑事裁判での嘘と真実

英米型審理と大陸型審理―日本型審理の探究―(上)(下)

自首と自由

刑事司法における正義と刑事司法による正義

供述証拠についてのイギリス法とアメリカ法

素人裁判官の心証と友人裁判官の心証

現行犯概念の展開

安楽死について

罪数論―観念的競合と併合罪を中心として

故意と過失の分界について

警察学論集二七巻五号 昭和四九年

研修三一二号 昭和四九年

警察学論集二七巻六号 昭和四九年

法曹時報二六巻六号七号 昭和四九年

刑法雑誌二〇巻一号 昭和四九年

法律のひろば二七巻九号 昭和四九年

ジュリスト五六九号五七〇号 昭和四九年

法学研究四七巻九号 昭和四九年

判例時報七五三三号 昭和四九年

警察学論集二七巻一号 昭和四九年

法学研究四八巻一号 昭和五〇年

ジュリスト五八四号 昭和五〇年

世紀二九九号 昭和五〇年

法曹時報二七巻六号七号 昭和五〇年

時の法令八九八号 昭和五〇年

警察学論集二八巻九号 昭和五〇年

法学研究四八巻八号 昭和五〇年

研修三二七号 昭和五〇年

警察学論集二八巻一一号 昭和五〇年

警察学論集二九巻二号 昭和五一年

刑法雑誌二二巻二号 昭和五一年

法曹時報二八巻六号 昭和五一年

黙秘権と偽証罪―犯罪捜査と国政調査権	自由と正義二七卷一〇号	昭和五十一年
訴因をめぐる理論と実際	法学研究四九卷一一号	昭和五十一年
刑事再審と証拠法則	法律のひろば二九卷一二号	昭和五十一年
供述証拠の表と裏	研修三三七号	昭和五十一年
明治期におけるフランス刑訴の受容と修正	法学研究五〇卷二号	昭和五十一年
フランス刑訴・ドイツ刑訴の特色―治罪法・明治刑訴・大正刑訴への影響を通じて(有泉亨教授退職記念号)	上智法学論集二〇卷三号	昭和五十一年
当事者主義訴訟における訴訟条件	法曹時報二九卷八号	昭和五十一年
刑事免責の研究(特別捜査幹部研修所創立一〇周年記念)	警察学論集三〇卷一〇号	昭和五十一年
偽証罪再論―議院証言法における偽証罪との関係で	法学研究五〇卷一二号	昭和五十一年
訴訟条件としての告発	警察学論集三一卷三号	昭和五十一年
外国の裁判機関による証人の尋問―わが伝聞法則の再検討	上智法学論集二一巻二号・三号	昭和五十一年
日本人と和合の心情―刑事訴訟法との関連で	法曹時報三〇卷六号	昭和五十一年
事後審としての事実審	上智法学論集二二巻三号	昭和五十一年
我が国における暴力犯	警察学論集三二巻五号	昭和五十一年
新旧刑訴の連続性と非連続性	法曹時報三一巻五号	昭和五十一年
日本の国民性から見た法曹四者	ジュリスト七〇〇号	昭和五十一年
わが国民性と司法参加―陪審か参審か	自由と正義三〇巻一〇号	昭和五十一年
事後審としての事実審の限界	判例時報九六七号	昭和五十一年
医療過誤事件における鑑定	判例時報九七七号	昭和五十一年
法医及び医事鑑定―医学と法学の接点―	研修三八七号	昭和五十一年
中国の法治主義の前途	研修三九九号	昭和五十一年

現代の検察—日本検察の実態と理論

法学セミナー増刊(総合特集シリーズ一六)「日本の検察」

昭和五六年

医療過誤事件の捜査と裁判

警察学論集三四卷九号

昭和五六年

生物学の新発展と人権—生物学・医学・法学接点

判例時報一〇〇九号

昭和五六年

医療と人権

法曹時報三三卷九号

昭和五六年

改正刑法草案の保安処分と精神衛生法による入院の関連

法律のひろば三四卷一〇号

昭和五六年

慰藉料・過失利益の判例への疑問—刑事法専攻者の視点から

判例時報一〇四一号

昭和五七年

刑訴法の受容と土着化—医学・医療との対比で—

「刑事裁判の諸問題」岩田誠先生傘寿祝賀記念論文集所収

昭和五七年

医師の説明義務

立正法学一六卷一・二号

昭和五七年

死刑制度をめぐる諸問題

自由と正義三三卷一二号

昭和五七年

医療過誤—業過と不法行為の接点

研修四一三号

昭和五七年

箕面忠魂碑判決をめぐる

世紀三九六号

昭和五八年

医療における治癒期待権への疑問—刑事法専攻者の視点から

法学研究五六卷一〇号

昭和五九年

医療過誤と信頼の原則

研修四二四号

昭和五九年

行為の不法性—刑事法専攻者の視点から

団藤重光博士古稀祝賀論文集(第一卷)所収

昭和五九年

出生および死亡における医療の限界—殺人罪、保護責任者遺棄罪の可罰的違法性

判例時報一一二八号

昭和五九年

輸血と患者の承諾

研修四四七号

昭和六〇年

複数主体の医療に関する民事責任・刑事責任

法曹時報三七卷九号

昭和六〇年

わいせつ性の判断基準

保安と外勤一二卷二号

昭和六一年

日本人の法意識

警察公論四一卷七号

昭和六一年

過失犯の拡散について—日本の特色

研修四五八号

昭和六一年

自白の信用性と日本人

判例時報一二一三号

昭和六二年